



作/松原俊太郎
演出/今井朋彦

メモリアル



太田志津香



上田桃子



前東美菜子



神野 崇



山森大輔



萩原亮介

おれたちには 人生しかないのか?

登場人物は、花嫁、独身者、娘、入国者、取次者、相続人の6人と、ほかたくさんそれぞれの行く末を抱えた6人が交叉点のまん中で衝突(っ)します。川のように流れていた時間が中断し、人びとの足は止まり、そもそもふおんだった空気はさららにふおんになり……みんな、なんとか、出口を見つけられるでしょうか……

当然ながら人物たちはこうしたあらすじからは脱出します。言葉というのは便利なもので、いま、とか、ここ、で起きていることを明確に差し出すことができません。そのせいもあってか、不足が、軋轢が、格差が、対立が生じ、みんなばらばら、罵声あるいは沈黙。というのが、人物たちが身をさらす、ふつーの背景です。ふつーの背景では、必ず、どこかに不定の動きが発生し、拡散します。いま、とか、ここ、に不在なのは人権ではありません。(松原俊太郎)

『演劇立体化運動—これからの演劇と岸田國士—』をテーマに掲げた、2019年の文学座アトリエの会の掉尾を飾るのは、『山山』で岸田國士戯曲賞を受賞したばかりの松原俊太郎による最新作！劇作・演出を兼ねるスタイルが全盛の現代日本の演劇界では希少な松原作の地点公演『忘れる日本人』を観て「新たな価値観との出会い」を果たした今井。この出会いが紡ぎだす物語とは……。

松原俊太郎

Shuntaro Matsubara

1988年、熊本市生まれ。神戸大学経済学部卒。2015年、処女戯曲『みちゆき』が第15回AAF戯曲賞(愛知県芸術劇場主催)大賞を受賞。2017年、戯曲『忘れる日本人』(「地下室」草1,2,3号連載)、2018年『山山』が地点によりKAATにて初演、同作品にて第63回岸田國士戯曲賞を受賞。他の作品に小説『またのために』(「悲劇喜劇」2018年1月号)、戯曲『カオラマ』など。2019年度セゾン文化財団ジュニア・フェロー。(助成:公益財団法人セゾン文化財団)

美術/乗峯雅寛 照明/阪口美和
音響/藤田赤目 舞台監督/岡野浩之
制作/梶原 優、田中雄一郎、佐藤竜太郎
フライヤー/矢萩多聞

文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

2019年12月3日(火) — 15日(日)
信濃町 文学座アトリエ

前売開始
11月1日(金)

入場料〈全席指定・税込〉

前売・電話予約:4,600円 当日:4,800円*1 ユースチケット:2,700円*2

*1……当日券は開演の3時間前より、03-3353-3566(文学座当日券申込専用)でご予約を承ります。
*2……25歳以下の方対象・取り扱い文学座のみ。ご観劇当日、年齢を確認できる身分証明書等をご持参下さい。

チケット取り扱い

文学座チケット専用

0120-481034
(10:00~17:30/日・祝除く)

チケットぴあ

0570-02-9999 (Pコード496-861)

e+ (イープラス)

http://eplus.jp/bungakuza (PC・携帯共通)

文学座ホームページ

http://www.bungakuza.com (Gettyより)



QRコードより
お申込み可能

◎未就学児のご入場はご遠慮下さい。
◎車イスでご来場のお客様は、必ずご予約時に文学座までご連絡下さい。

タイムスケジュール

12/3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
14:00						休演						
19:00		★		★								

※開場は開演の30分前 ★=終演後アフタートーク開催

★アフタートーク

5日(木) 19:00の回 矢萩多聞(画家・装丁家)、上田桃子、山森大輔

7日(土) 19:00の回 松原俊太郎(作)、今井朋彦(演出)、中村彰男

◎終演後、アトリエ70周年プレイベント岸田國士リーディング&トーク開催。詳細はHPにて。

交通アクセス・お問い合わせ



文学座 電話 03-3351-7265 (10:00~18:00/日・祝除く)
〒160-0016 東京都新宿区信濃町10
http://www.bungakuza.com info@bungakuza.com

「文学座支持会」をご存知ですか? チケットの優先予約やご招待・ご優待など色々な特典があります。詳細は文学座(03-3351-7265)へお問合せ下さい。